

博物館

被災後に
発見された
ときの様子



人面付き石棒
(岩手県陸前高田市矢作町板橋山遺跡出土)

人面付き石棒

陸前高田市立博物館
公式マスコット「せき坊」



石棒せきぼうは男性を象徴する儀礼ぎれい的なものと考えられています。この資料は縄文時代晩期に作られ、頭部にかわいい顔が彫刻された珍しい石棒です (53mm×46mm)。これをモチーフにした陸前高田市立博物館 (岩手県) の公式マスコットが「せき坊」です。

2011年3月11日、東日本大震災における大津波により、同館では多数の資料が壊滅かいめつ的な被害を受けました。この石棒もその一つで、被災から1か月半が過ぎた頃、レスキュー活動の中で発見され、劣化れいかを防ぎ安定的に保管できるように処置されました。

特別陳列「よみがえる、ふるさとの“たからもの”」(2017年12月16日～2018年1月21日)では、大津波に被災した後、修復しゅうふく・再生さいせいされた様々な資料を紹介します。(歴史担当：長谷川賢二)

皆さんは「縄文時代」と聞いてどんなイメージを持つでしょうか。自然のなかで狩猟・採集を生業とした縄文人に、近年は「エコな生き方」という文明批判を含めたイメージもあります。徳島において、縄文時代のことはどこまでわかっているのでしょうか。たどってみたいと思います。

1 どのように発見されたか

「縄文時代」や「縄文人」という呼び方が現在定着しています。そのもとは、アメリカ人動物学者モースによる1877（明治10）年の大森貝塚の発見にあります。彼の「cord marked pottery」という表現を「縄紋土器」と訳したのが最初です。江戸時代から石器や土器に関心を持つ伝統も近代的学問の装いとなって、日本人起源とともに研究されました。当時は「石器時代」と呼ばれ、その主役をアイヌ民族などに求めて様々な学説が唱えられ、貝塚などの発掘も相次ぎました。

徳島でも明治後半期に、鳥居龍蔵（1870～1953）や笠井新也（1884～1956）などが、石器の情報を集め、地名にアイヌ語の痕跡を探すなどの研究をしていました。

大正期には海外調査を中心としていた鳥居が、アイヌ（縄文）式と弥生式の土器や石器に着目して日本人成立論に一石を投じた『有史以前の日本』がベストセラーとなりました。東京帝国大学の助教授となった鳥居が1922（大正11）年、帰郷して城山貝塚を発見し、発掘しました。岩陰や洞窟の貝塚からは縄文人骨をはじめ縄文・弥生の土器なども発見されました。この調査に参加した森敬介（1888～1947）らはその後、精力的に石器時代の調査を行います。1925（大正14）年、佐



図1 城山貝塚調査中の鳥居龍蔵
（同文社 1923『教育画報』16巻5号所載）

古配水場工事で三谷遺跡を発見、縄文土器や丸木船が話題になります。

この頃までは、縄文・弥生の時間的前後関係は曖昧でしたが、昭和に入り縄文土器・弥生土器の編年が確立し、縄文式文化時代、弥生式文化時代と呼ばれるようになります。

太平洋戦争後、全国では遺跡の発掘も進み資料は増大していきますが、徳島では発見も少なく、1964（昭和39）年の『徳島県史』にはわずか6ヶ所しか記載がありません。しかしその後1965（昭和40）～1988（昭和63）年には徳島県博物館、同志社大学、徳島県教育委員会、徳島市教育委員会によって、那賀町古屋、東みよし町加茂谷川の岩陰遺跡や鳴門市森崎貝塚、吉野川市東禅寺、徳島市庄・名東、東みよし町稲持の各遺跡などが調査され、研究の基礎資料となりました。当館の常設展示はこの頃までの資料をもとに構成されています。

全国的に平成期前半は発掘調査のピークで、青森県三内丸山遺跡などによって「豊かな狩猟採集民・縄文人」がイメージされていきました。1989（平成元）年、大規模開発の対応に財団法人徳島県埋蔵文化財センターが設立され、高速道路などの発掘調査により、各時代とも爆発的に資料が増加しました。縄文時代の遺跡も広範囲に、深い地層まで確認が進み、徳島市矢野、美馬市荒川、つるぎ町貞光前田、阿波市西谷、美波町田井、阿南市宮ノ本・深瀬などの各遺跡が発見され、大量の遺物と遺構の状況が少しかわかってきました。市町村資料も徳島市三谷遺跡、鳴門市檜寺前谷川遺跡などが貴重です。現在、県内の遺跡・遺物出土地は135ヶ所に増えました。



図2 矢野遺跡縄文土器
（徳島県立埋蔵文化財総合センター蔵）

2 何が明らかになったのか

縄文時代は草創期・早期・前期・中期・後期・晩期と、土器の型式をもとに分けられます。相対的な前後関係を基本に、炭素14年代法など理化学的な分析で絶対年代が与えられます。日本列島で最古の土器は氷河期終わりころの約1万6000年前とも言われ、これ以降を縄文時代と呼びます。気候は温暖化に向かい、海水面が上昇する「縄文海進」がおこります。やがて河川の運ぶ土砂で平野（沖積地）が広がります。

徳島は、草創期の土器は出土していません。この時期に特有な有舌尖頭器という小型の槍先が約20ヶ所で出土するだけです。早期以降、遺跡は増え、後期前半と晩期後半には遺跡数・出土量とも多いのですが、他の時期はあまり多いとは言えません。遺跡立地の傾向を見ると、前期までは山間部や山麓、段丘上が主流で、中期以降、沖積地に登場し始め、やがて主流になっていきます。縄文海進やその後の陸地化が影響していると考えられます。

住居跡と見られる遺構は62ヶ所。岩陰が8ヶ所、竪穴が54軒です。後期初めの矢野遺跡や晩期後半の宮ノ本遺跡は多数の竪穴建物がみつっていますが、他は単独か、2軒程度しかみつっていません。

石器は狩猟・漁労・採集の道具として、また道具

を作る工具として、石質を選びながら、目的に応じて作られています。石器の組みあわせによって暮らしの特徴がわかります。後期前半に漁網の錘が多くみられ、晩期には土を掘る石鍬や、収穫用の石器が増えるなど、暮らしの変化が読み取れ、農耕社会への準備が整いつつあるように思えます。石材は徳島にないものもあり、人とモノの交流があったことがわかります。徳島産の石棒が近畿・中国・四国に広がっていったという研究もあります。

徳島の縄文時代は、蓄積されてきた資料をどのように読み解いていくか、研究の進展が楽しみな状況となっています。（館長）

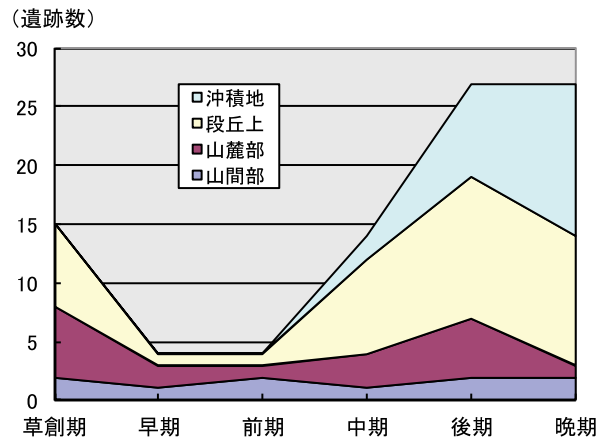
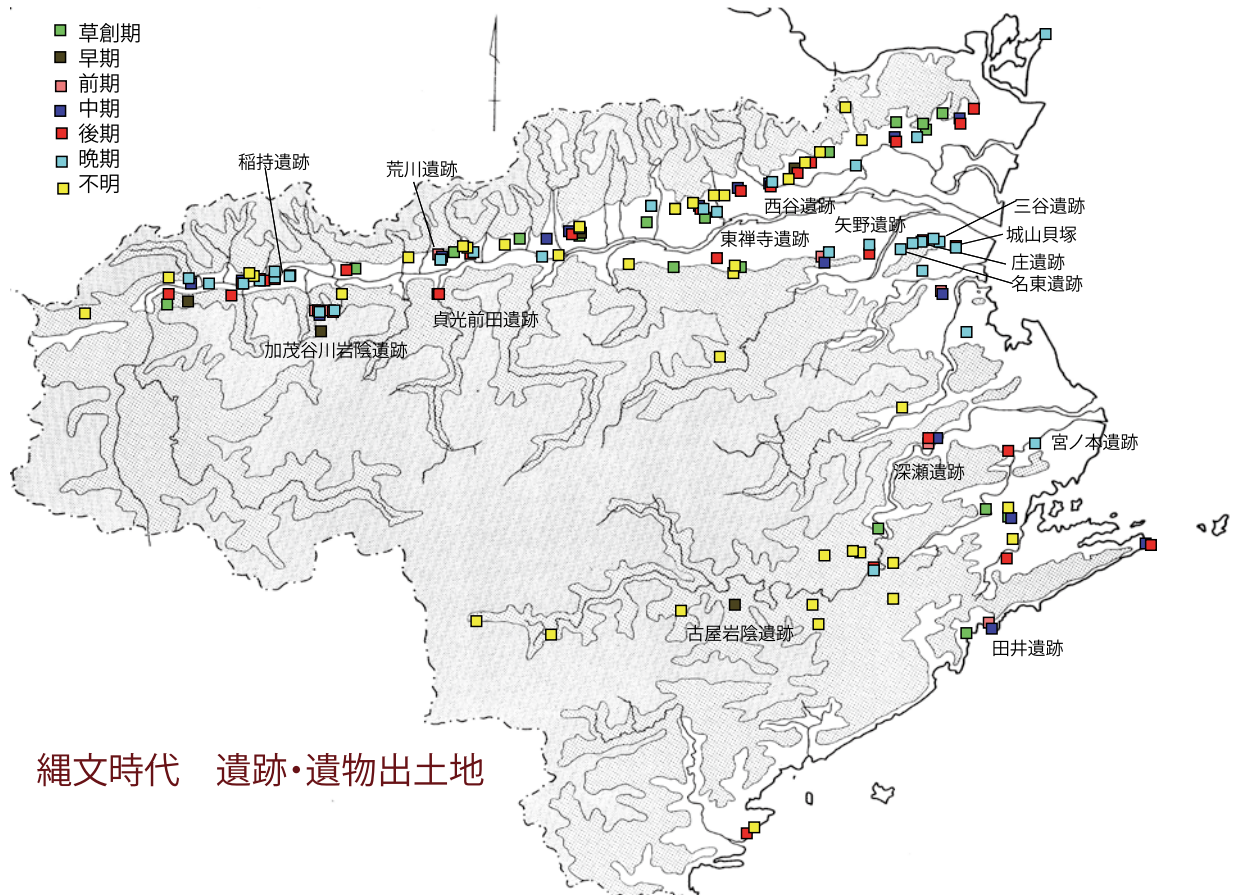


図3 縄文時代の遺跡数と立地



縄文時代 遺跡・遺物出土地

図4 縄文時代の遺跡分布

よみがえる、ふるさとの“たからもの” —大津波被災文化財の再生から未来へ—

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、大津波による壊滅的な被害を受けた陸前高田市立博物館（岩手県）では、全国の博物館・文化財保存関係者や市民らの連携と努力によって救出された様々な資料（ふるさとの“たからもの”）を修復し、再生する取り組みが続けられています。

この特別陳列では、再生された資料を通じ、地域における博物館の果たす役割、博物館と資料、文化財を守ろうとするネットワークの意義を考えます。あわせて、徳島県内での文化財レスキューや津波碑の保存・活用などの取り組みを紹介し、私たちの身近な問題としてもとらえたいと思います。

2017年12月16日（土）～2018年1月21日（日）

休館日 月曜日（1月8日は開館）、12月29日（金）～1月4日（木）、1月9日（火）

■会場：博物館1階 企画展示室

■観覧無料

主催 徳島県立博物館、津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会

協力 歴史資料保全ネットワーク・徳島

※この特別陳列は、平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）による助成を受けて実施するものです。



図1 被災した陸前高田市立博物館



図2 被災資料のレスキュー活動



図3 植物標本の修復作業

◆被災文化財安定化処理ワークショップ

- ①日時 1月14日（日）9：30～16：30
- ②会場 博物館3階 実習室
- ③内容 被災文化財の安定化処理（劣化防止処理）についての講義と実習
- ④対象・定員 一般40人
- ⑤申し込み方法

往復はがきに、1)氏名、2)住所、3)電話番号を記入して、**1月5日（金）まで**に届くよう博物館（ワークショップ係）へお送りください。参加希望者が多い場合は抽選します。

◆展示解説

- 日時 12月17日（日）13：30～14：00
1月21日（日）13：30～14：00

※申込不要

図4 再生された資料

- ①「定留」嘉永3年（個人蔵）
- ② 蔵手刀（陸前高田市立博物館蔵）
- ③ 青い目の人形（陸前高田市立気仙小学校蔵）
- ④ 徳島県立博物館で修復した植物標本（陸前高田市立博物館蔵）



阿波の土柱

国指定天然記念物「阿波の土柱」(以下、土柱：図1)は、100万年ほど前に阿讃山地の扇状地に厚くたまった地層(土柱層)からできています。土柱は深い雨裂が多数発達する、典型的な悪地地形です。また、地質学的にも興味深い場所で、「日本の地質百選」にも選ばれています。今回は、土柱に関する2つのトピックスを解説します。

◇九州からの火山灰

土柱の一部に、厚さ20cmほどの白っぽい火山灰(土柱火山灰)が挟まれています(図2)。これは、近畿・北陸・関東に分布する「猪牟田ピンク火山灰」と同じもので、大分県九重山地北部の猪牟田カルデラから約100万年前に噴出した火山灰と考えられています。この火山灰と同時に噴出した火砕流堆積物は、景勝地として有名な耶麻溪(大分県中津市)の一部を作っています。

◇西向き斜面に集中する悪地地形

土柱層の悪地地形は西向き斜面に集中すること



図1 正面からみた土柱



図2 土柱の中にみられる土柱火山灰(=猪牟田ピンク火山灰：矢印)

が古くから知られていました。こうなる理由として、過去にいくつかの説がありましたが、それぞれ難点がありました。またよく見ると、悪地地形に限らず、土柱層の露頭の大半は西向き斜面に集中しています。

この一見不思議な現象は、最近になって、中央構造線の動きに関係しているという説が提唱されています。中央構造線の動きは、主に東西方向の右横ずれです。ある時期に中央構造線が動くと、阿讃山地から南流する河川は中央構造線に沿って西に屈曲します。その後も河川が継続的に南流すると河川の左岸(西向き斜面)は侵食力が選択的に強く働き、崩れやすくなり、大規模な露頭の形成につながると考えられます(図3)。現在の知見と照らして、これが最も自然で無理のない説明でしょう。

土柱は手軽に行ける場所なので、散歩を兼ねて行かれてはどうでしょうか。

(地学担当：中尾賢一)

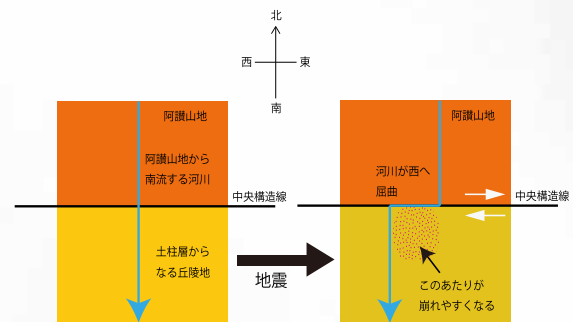


図3 中央構造線の動きと河川の屈曲、地層の崩れやすさの関係



図4 上から見た土柱

辰砂が宿る岩石

若杉山遺跡発掘資料

阿南市の若杉山遺跡は、弥生時代終末期から古墳時代初頭に、硫化水銀からなる鉱物、辰砂を採掘し、それを原料として水銀朱と呼ばれる赤色粉末を生産していた遺跡です。徳島県博物館が1984年から1987年に行った発掘調査では、辰砂の採掘や水銀朱の生産に使用した弥生時代の石器や土器が出土したほか、「辰砂原石」とされる岩石が出土したと報告されています。その大半は未調査のまま博物館に保存されていたのですが、2017年度の中学生の職場体験「考古資料の整理」を機に、若杉山遺跡発掘資料、特に「辰砂原石」とのメモがある資料約300点を対象として、整理と保存科学的な調査を開始しました。

拡大観察やエックス線透過撮影、蛍光エックス線分析で調査した結果、辰砂が付着する岩石（母岩）を2017年9月時点で18点確認しました。17点は3次調査のD-8区、1点は2次調査のA-4区からの出土です。D-8区は、遺構として5つの土抗



図1 若杉山遺跡 3次調査 D-8 区の調査時の様子



図2 辰砂が付着する岩石。最大のもの（右上）で長辺6.7cm、厚み3.2cm。

を検出、遺物は半球状のくぼみが3カ所ある石臼、石杵、勾玉、弥生土器などが出土していることから、辰砂から水銀朱を作り出す作業場の一つではないかと考えられています。A-4区は水銀朱付着の土器片が30点以上出土した調査区です。

母岩の大きさは最大のもので長辺6.7cm・厚み約3cmで、長辺3cm以下の破片が半数を占めます。材質的な特徴としては、①カルシウムを強く検出するもの、②ケイ素を強く検出するもの、③同一母岩内でカルシウムとケイ素の両方を強く検出するものの3種類が存在することを確認しました。辰砂の採掘場所が複数あった可能性もあります。

残念ながら今回の調査対象資料は、出土状況の詳細が記録されておらず、遺構や遺物との関係を言及することは困難ですが、遺跡の全体像を考える上で大変重要な資料といえます。

博物館には未調査の「辰砂原石」がまだ数多く残っていますので、調査を継続し、若杉山遺跡の実像に迫っていきたいと考えています。

(考古・保存科学担当：植地岳彦)



図3 母岩表面に見える赤い部分が辰砂（上）。エックス線写真では、辰砂は白い点として見える。上の写真では赤色が見られない部分にも辰砂があることが確認できた（下）。

正月に 神棚などに祀る 神宮大麻とは 何ですか？



図1 神宮大麻 (当館蔵)

神宮大麻とはあまり聞き慣れないものですが、三重県伊勢市に鎮座する伊勢神宮のお神札で、正月を迎える前に日本全国の神社を通して配られています (図1)。

大麻は古くは「おおぬさ」と読み、捧げ物やお祓いに用いる祭具とされています。明治4年(1871)の神宮制度改革期に神宮大麻「じんぐうたいま」と音読みするよう改称し、皆が朝夕敬拝できるように神宮から全国各地に頒布するようになったそうです。

家々では正月を迎えるにあたって、神棚にこの伊勢神宮のお神札と氏神のお神札をお祀りし、1年の幸福を祈ってきました。徳島県内では、床の間や神棚に神宮大麻と氏神のお神札を祀り、新しい1年を迎える家庭が現在でも多く見られます (図2)。

ところでこの神宮大麻、神宮制度改革前は、伊勢の御師と言う人達によって各地に配られていました。御師が徳島県内を訪れていた痕跡は、いろいろな所に残っています。

たとえば、江戸時代後期に名西郡石井町の藍作の豪農によって書かれた『加登屋日記』には、文政5、6年(1822、1823)に「伊勢御師笠井

太夫」が滞在した記録があります。また、つるぎ町半田の商人による『兵助日記』には、明和3年(1766)に「伊勢内宮御師宇津保太夫」が庄屋後見宅を訪れた事、文化13年(1816)には「伊勢山田御師堤正親」が見廻りに来た記事などがみえます。

また、阿波市土成町の家に残されていたお神札には、「外宮一ノ鳥居御師高向松大夫」と記されたものが多数あり (図3)、長年にわたってこの祓銘を持つ御師がお神札を頒布していた事が推察できます。

正月、初詣に行った際などにお神札について考えてみるのも一興かと思えます。

(民俗担当：庄武憲子)



図2 美波町赤松での正月の床の間。右に神宮大麻、左に氏神のお神札が祀られている (2012年1月撮影)。



図3

阿波市土成町に残されていた大麻の一部。「太神宮御祓大麻」、「千度御祓大麻」など多数の大麻が残され、「外宮一之宮鳥居 御師 高向松大夫」の名が見える (当館蔵)。



1月から3月までの博物館普及行事 あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行 事 名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備 考
野外生きものかんさつ	中級クラス植物観察会 1月	1月21日(日)	9:30~17:00	不要	小学生から一般(10)	
	初めての植物かんさつ(冬編)	2月4日(日)	13:30~15:30	不要	小学生から一般(15)	
みどりを楽しもう・味わおう	タンポポコーヒーでティータイム	3月25日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(30)	
たのしい地学体験教室	木の葉化石の発掘体験	2月25日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(25)	材料費100円 (高校生以下は不要)
	三好市池田の中央構造線を歩こう	3月18日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(25)	現 地 集 合
ワクワクむかし体験	土器をつくろう①成形	1月21日(日)	13:30~16:00	要	小学生から一般(20)	(①・②セット)申込みは1/11(木)まで 材料費300円(高校生以下は不要)
	土器をつくろう②焼成	2月18日(日)	9:30~16:00			
ミュージアムトーク	徳島の縄文時代	2月25日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
	四国の瓦窯と瓦生産	3月11日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
特別陳列関連行事	被災文化財安定化処理ワークショップ	1月14日(日)	9:30~16:30	要	一 般(40)	
	特別陳列「よみがえる、ふるさとの“たからもの” 一大津波被災文化財の再生から未来へ」展示解説	1月21日(日)	13:30~14:00	不要	小学生から一般	
部門展示関連行事	部門展示「ここまでわかった!徳島の縄文時代」展示解説	1月8日(月祝)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	祝 日 無 料
	部門展示「ここまでわかった!徳島の縄文時代」展示解説	2月4日(日)	14:00~15:00	不要	小学生から一般	観 覧 料 必 要
	部門展示「阿波の3大絵巻」展示解説	3月18日(日)	13:30~14:00	不要	小学生から一般	観 覧 料 必 要
	部門展示「阿波の3大絵巻」展示解説	3月25日(日)	13:30~14:00	不要	小学生から一般	観 覧 料 必 要
博物館スペシャル	文化の森ウィンターフェスティバル	2月11日(日祝)	9:30~16:00	不要	幼児から一般	祝 日 無 料

◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。
 ◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎行事日の1カ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入してください。
 ※6月1日より、ハガキの料金が52円から62円に改定されています。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。
 ※お問い合わせは、徳島県立博物館へ(電話088-668-3636)

往復はがきの記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
62 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	62 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名(学年) 3.住所 4.電話番号

特典がいっぱい!! 博物館友の会に入会しませんか?

博物館友の会は、さまざまな活動を通して自然や文化に親しみ
 とともに、会員相互の交流をはかっています。
 2017年度も楽しい行事が予定されています。みなさんも参加
 してみませんか?

- 年会費 ・個人会員2,000円 ・家族会員3,000円
 (10月以降、年会費がそれぞれ半額となります。)
- 会員の特典 ・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧
 料が無料になります(一部の企画展を除く)。
 ・友の会の楽しい行事に参加できます。
 ・友の会の出版物やミュージアムショップの
 商品を、1割引で購入できます。
 ・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送
 付されます。

- ◆2017年度行事(友の会会員対象の行事です。)
 5月27日(土) 化石を探そう(兵庫県南あわじ市) ※募集終了
 7月29日(土)・30日(日)
 キャンプで自然体験(佐那河内村) ※募集終了

- 10月 1日(日) 祭り見学(阿南市橘町) ※募集終了
 - 11月 5日(日) 里山探検(徳島市上八万町・下町・一宮町)
 ※募集終了
 - 12月 2日(土) 津波碑などの見学(海陽町浅川地区) ※募集終了
 - 2月 4日(日) 大阪日帰りバスツアー(大阪府高槻市・吹田市)
 - 3月 3日(土) ナイトミュージアムツアー(博物館)
- ※行事名・期日・場所は変更する場合があります。あらかじめ
 ご了承ください。



京都日帰り研修(2016年度)

上記お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636)